



磁気ループの導入

渡辺ふさ子

**問** 高齢化社会が進むにつれ、難聴者は約600万人とも言われ、今後も増加が予想される。難聴者は一般的に補聴器で聴力を補っているものの、騒音の多い屋外や人の集まる場所では音声を正確に聞くことが困難であり、社会参加へのバリアになっている。心と体の健康寿命を延ばすためにも、積極的に社会参加できる環境づくりが必要である。公共施設での様々な場面で聞こえをサポートする、**磁気ループ**（ヒアリンググループ）の導入について見解を伺う。

**健康福祉部長** 難聴の方には、あれば望ましい機器であると認識していますが、一方で発生する磁気によりペースメーカーへ影響する可能性もあるということで、導入は慎重にと考えます。他自治体の設置の動向や先進自治体の事例等も含め、研究したいと思います。

磁気ループ導入し貸出を

**問** 埼玉県入間市で昨年の3月に移動式磁気ループを導入し、市民に貸し出している。難聴を自覚し

てから閉じこもり状態だった方が、「ヒアリンググループで生活の質が一変した。鮮明な音を聞くことで社会参加できたのが何よりうれしい」と報道があった。携帯型ヒアリンググループシステムを導入し、市民への貸出しをしてはどうか。

**市長** 活動がさらに活発になるとか、いろいろなメリットがあるということであれば使いたい。検討したいと思います。

**問** 設置型ヒアリンググループシステムを西部地区コミュニティセンターの設計に取り入れてはどうか。

**さわやか市政推進課長** 検討委員からのご意見は出ていませんが、今後研究したいと考えます。

**問** 検討委員会へ提案をしてはいいかがか。

**総務部長** 検討委員会に議員からのお話はご報告したいと思えます。

※磁気ループはループ線を取り囲まれた範囲に磁気信号を出し、補聴器や専用受信機などで聞くことができる。

◎その他の一般質問  
・国民健康保険



危険ブロック塀の調査等

酒井 信幸

**問** 平成30年度に宮城県と合同で行った小学校スクールゾーン内のブロック塀等実施調査が昨年度末までに完了したが、何日間行われたのか。

**施設管理課長** 平成30年12月から平成31年2月（18日間）に実施しました。

**問** 今回、小学校の半径500メートル368カ所を調査して、問題無しが75カ所、経過観察が必要なのが9カ所、詳細な調査が必要なのが179カ所、改修が必要は96カ所、除却が必要は9カ所である。平成30年第4回定例会の答弁では、危険な箇所が2カ所だったが、問題な箇所が大幅に増えたのは、専門的な調査を行ったためなのか。

**建設部長** 県の建築専門官と一緒に機械器具を用いて、傾斜測定や鉄筋探査、ぐらつき具合等の詳細な点検を行った結果、このような数字となりました。

**問** 県との合同調査の結果を踏まえて、今後の対応をどのように行っていくのか。

**建設部長** 県から所有者に調査結果を文書で通知しています。あわせて市のブロック塀の除却補助制度の案内も同時に行っています。さらに、教育委員会と情報共有を図り、各学校へ連絡をし児童への指導も行っています。

**問** 県は危険なブロック塀を減らす取組を続けていくとしているが、今後も定期的に調査を行うのか。

**建設部長** 除却が必要な9カ所については、1年に1回必ず県と一緒に点検を行い所有者に是正の通知をします。改修が必要な96カ所については、2年サイクルで同じ対応をしていきます。

広域な調査をすべきでは

**問** なぜ、今回の調査は小学校の半径500メートル以内限定したのか、中学校の周辺や指定避難所、保育所等も含め、広域に調査をすべきと思うがいかがか。

**建設部長** 市の施設は、施設管理者が点検を行っています。道路沿線にあるブロック塀について今後調査点検を行っていきます。